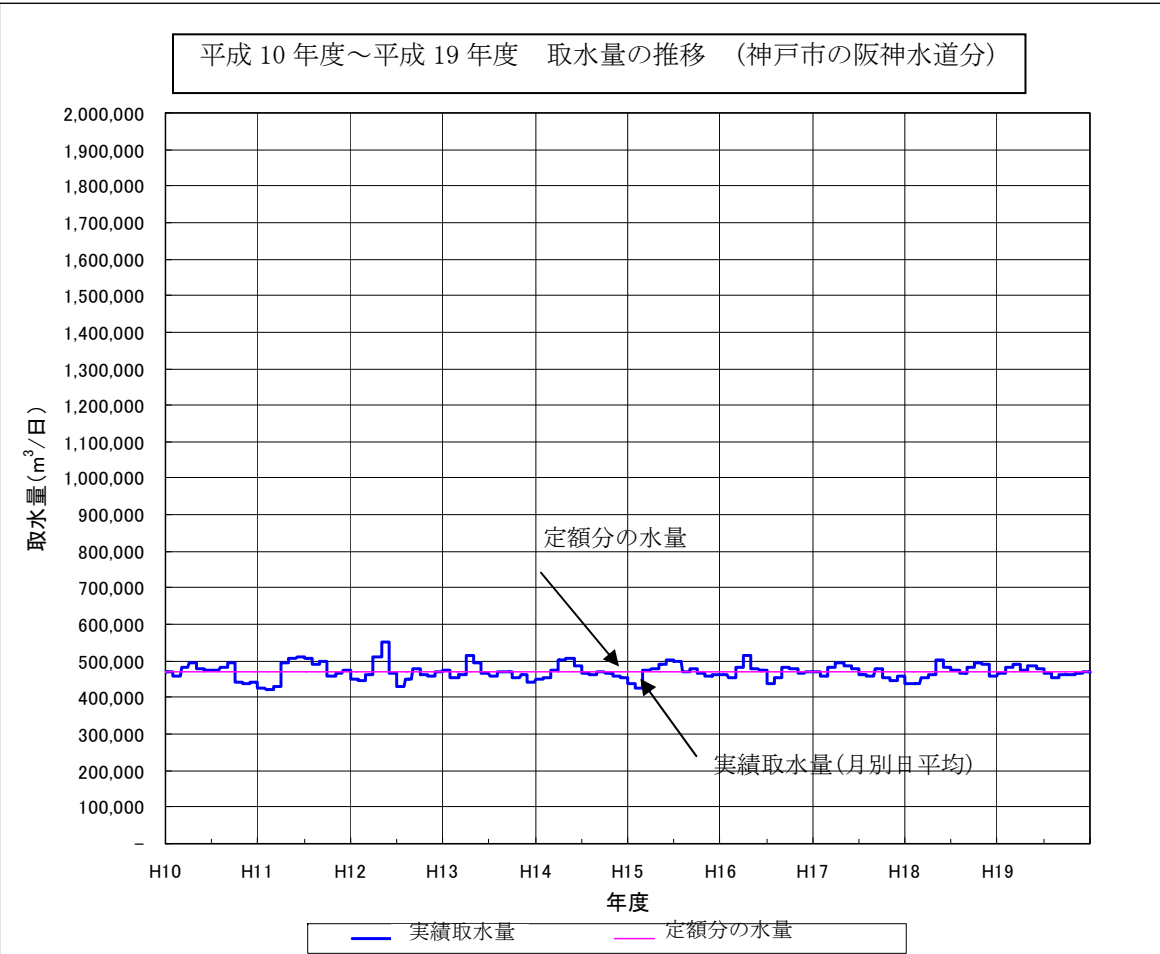
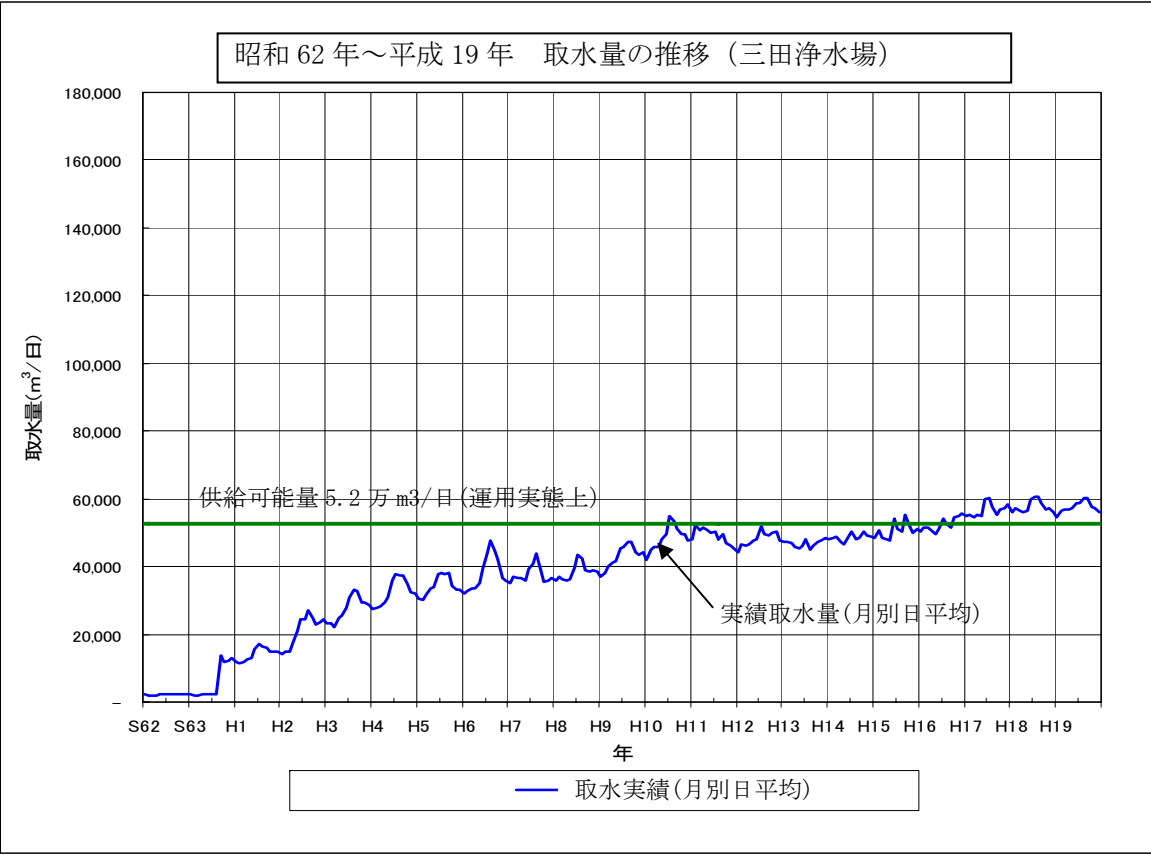


第 57 回流域委員会資料 3 に対する質問と回答

主な内容	番号	質問	委員名	回答																				
地下水源の再活用	1	放棄した地下水源を再活用することによって新たな余裕を生み出すという可能性があれば、教えていただきたい。	奥西委員	廃止した地下水源を再活用できれば、水源余力活用の代替水源として利用できる可能性はあります。しかしながら、このような既存水源の廃止は、水質悪化や維持費用の増大など、何らかの課題があり、継続使用できないと判断された結果です。したがって、水源余力活用の代替水源の対象としていません。																				
効果量	2	課題をクリアした場合の効果量を算出していただければ教えてもらいたい。	池淵委員	<p>ご質問の件は、後日回答することとしていましたが、第 57 回流域委員会資料 3 P58 に既に記載していただいたので、再掲いたします。</p> <p>表 7.1 現時点での検討結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>丸山ダム</th> <th>千苺ダム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>位置付けない しかしながら、予備放流の確 実性が確認できれば一定の 効果量(27m³/s程度<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継 続して検討する。</td> <td>位置付けない しかしながら、課題解消や予備放 流の確実性が確認できれば大き な効果量(最大472m³/s<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継続し て検討する。</td> </tr> </tbody> </table>	丸山ダム	千苺ダム	位置付けない しかしながら、予備放流の確 実性が確認できれば一定の 効果量(27m ³ /s程度<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継 続して検討する。	位置付けない しかしながら、課題解消や予備放 流の確実性が確認できれば大き な効果量(最大472m ³ /s<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継続し て検討する。																
丸山ダム	千苺ダム																							
位置付けない しかしながら、予備放流の確 実性が確認できれば一定の 効果量(27m ³ /s程度<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継 続して検討する。	位置付けない しかしながら、課題解消や予備放 流の確実性が確認できれば大き な効果量(最大472m ³ /s<基本方針 降雨時>)が見込めるため、継続し て検討する。																							
堆砂量	3	資料 55 頁のトンネルの縦断からいくと堆砂がどのくらいの所なのか教えていただきたい。	佐々木委員	平成 20 年時点の千苺ダムの堆砂の高さは kop149.2m です。したがって、堆砂は、第 57 回流域委員会資料 3 P55 の洪水吐きトンネル敷高 kop150.0m より 0.8m 下の位置にあります。																				
堆砂量	4	平成 14 年の堆砂量は 36 万 8 千 m ³ と記録されている。現在の堆砂量が 60 万 m ³ 程度であれば、その間に 1 年間に平均して 4 万 m ³ 堆砂しているのか。その場合のダムの安全性はどのように担保するのか。	岡田委員	<p>千苺ダムの堆砂量の経緯は次表のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>堆砂量</th> <th>内、有効貯水容量内 (堆砂位より上)</th> <th>内、死水容量内 (堆砂位より下)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>59 万 m³</td> <td>53</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H 9</td> <td>52 万 m³</td> <td>46</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H 7</td> <td>50 万 m³</td> <td>44</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H 4</td> <td>43 万 m³</td> <td>37</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 57 回流域委員会で説明した堆砂量約 60 万 m³ は、H20 の堆砂量です。一方、流域委員会提言書 P58 に掲載されています堆砂量 36.8 万 m³ とあるのは、H4 の有効貯水容量内の堆砂量です。(提言書の H14 とあるのは H4 年の誤りです) したがって、実績比堆砂量は 105m³/km²/年となります。</p> <p>また現在の堆砂位は、計画堆砂位 kop149.4m より 0.2m 低く、堤体の安定性に影響を与えるものではありません。</p>		堆砂量	内、有効貯水容量内 (堆砂位より上)	内、死水容量内 (堆砂位より下)	H20	59 万 m ³	53	6	H 9	52 万 m ³	46	6	H 7	50 万 m ³	44	6	H 4	43 万 m ³	37	6
	堆砂量	内、有効貯水容量内 (堆砂位より上)	内、死水容量内 (堆砂位より下)																					
H20	59 万 m ³	53	6																					
H 9	52 万 m ³	46	6																					
H 7	50 万 m ³	44	6																					
H 4	43 万 m ³	37	6																					

主な内容	番号	質問	委員名	回答
<p>県営水道等の供給量</p>	<p>5</p>	<p>県営水道も阪神水道も市と供給量を決めている。このため需要量が高めに出ている可能性がある。</p>	<p>伊藤委員</p>	<p>下のグラフの青色の線は、阪神水道からの神戸市の実績取水量（平成10年～平成19年）、ピンク色の線は、阪神水道と神戸市が契約している定額分の水量を表しており、神戸市は定額分の水量を毎年使用していることを示しています。高い目に出ているわけではありません。</p> 

主な内容	番号	質問	委員名	回答
三田浄水場	6	三田浄水場ができてからの供給数量、今後の見込みを教えてください。	伊藤委員	<p>下のグラフの青色の線は、昭和 62 年から平成 19 年までの三田浄水場(青野ダム)の実績取水量(月別日平均)で、緑色の線が平成 6 年度渇水時でも青野ダムから安定して供給できる水量を表しています。三田浄水場からの取水量は、建設当時の昭和 62 年から年々増加してきており、平成 6 年度渇水が発生すると水源に余力がない状態となっています。</p> 
千苺ダムの高度浄水処理	7	厚生省から水道施設を更新する時点で高度浄水処理施設に変えていくように通達のような形で出ているのではないかと思います。神戸市は今後どうするつもりなのか聞きたい。	長峯委員	<p>高度浄水処理には、有機物やカビ臭等の溶解性成分の除去を目的とする粉末活性炭処理、粒状活性炭処理、オゾン処理、生物処理や、細菌対策を目的とした膜濾過等の処理があります。</p> <p>第 57 回流域委員会資料で、千苺ダムの治水活用で放流による水質悪化対策として求められている高度浄水処理は、このうちのオゾン処理のことを示しています。</p> <p>一方、厚生労働省からの通知により各水道事業者が行う細菌対策のための高度浄水処理は、膜濾過等の処理であり、今回の検討で課題としている高度浄水処理(オゾン処理)とは異なるものです。</p> <p>また、今後の高度浄水処理についての神戸市の考えは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千苺浄水場では現在、臭い物質除去対策として高度浄水処理の一つである粒状活性炭処理を採用している。 ・今後貯水池の水質が悪化することがあれば、必然的に更なる対応が必要となり、浄水場においてオゾン処理などより高度な処理を付加することも対策の一つとして挙げられる。 ・しかし、市民に安全で良質な水道水を供給する責務からは、良好で安心できる原水を確保しておいしい水を提供すべきものと考えており、水源保全対策にも力を入れているところである。 ・千苺貯水池の水は、布引溪流の水(神戸ウォーター)と並び「おいしい神戸の水」を象徴するもので、需要者からも高い評価を得ている。 ・したがって、今後も原水の水質を維持する努力を継続し、オゾン処理を付加した高度浄水処理導入の予定はない。